

〈里山歩き〉

横浜市青葉区にある“寺家(じけ)ふるさと村”という里山を歩いてきた。昔ながらの田園風景が広がっていて広さはなんと 120,000 m²。雑木林の谷筋に何枚もの田んぼが連なり、引水用のため池が点在している。山道を歩き始めるとすぐにスマレが見つかった。種類は分からないが、葉の形や花の色からすると少なくとも3~4種類はあった。ウグイスがまだうまく歌えずケキョケキョと鳴いている。テノールの大音量で歌うのはガビチョウ。ヤマガラがせわしく木の枝を飛び回りしきりに何かつついていた。尾根から谷筋に下りていくとヤマリソウがたくさん咲いていた。薄い青色の可愛い花だ。キイチゴと思われる白い花やウグイスカグラの朱色の花も見つかり、春風に揺れていた。田んぼを見ながらおにぎりを食べていると、畦道に黄色いチョウが飛んでいるのが見えた。遠すぎたので写真も撮れなかったが、キタキチョウだったのだろうか？池にはカメが数頭甲羅干しをしていたが、どうやらここにはいけないミシシッピーアカミミガメのようだった。在来種も外来種も入り混じっての里山風景、人の手が入った自然だが、だからこそ保たれている風景でもある。田んぼに水が張られたころ、また行ってみようと思う。

